

江東区観光推進プラン(案)【パブリックコメント意見対応一覧表】

| No. | ページ | 意見箇所 | 意見等(一部省略・要約) | 区の考え方 | プランへの反映 | 意見者年代 |
|-----|-------|-------------------------|--|---|---------|-------|
| 1 | 21 | ・観光ニーズの多様化について | 「観光ニーズの多様化」内の「埋もれている魅力が多い」について。江東区などのいわゆる下町エリアは江戸切子を中心としたガラス工房が多数存在します。見学やギャラリーを併設した工房も存在しますが、アクセスが悪い上に規模が小さく、また、購入することを前提とした施設が殆どなので、私のような「買う気はないけど工芸品を見たい」層を取り囲めていないと思いました。アクセスが良い、または人が集まるエリアに地元の工房の商品を展示する入場有料のガラス美術館(展示品は購入することも出来る)があれば「買う気はないけど見たい」「ガラス工芸品を購入したい」両方のニーズを叶えられ、地場産業の発展にも繋がるかと思いました。 | 江東区の江戸切子は魅力的な伝統工芸品です。ガラス美術館のような施設を作って観光者の増加、地場産業の発展に繋げていくということは、有効な取り組み案だと考えます。ただし、公立の美術館の運営は入場料だけでは難しく、資金調達の面やガラス美術館のニーズ、他の美術品との公平性などを慎重に検討していく必要があります。 | | 40歳代 |
| 2 | 42・43 | ・区の歴史文化の活用 ・観光舟運の活性化 | 江東区の水辺に関わる観光資源のポテンシャルについて、以下の2点を提言します。 1.復興橋梁の保護と観光資源としての認識 ・関東大震災により地域の橋が甚大な損害を被った後に建設されたものが復興橋梁と呼ばれる橋である。 ・関東大震災後に建設された橋は歴史的・文化的価値が高いが、認識不足で撤去が進んでいる。 ・ライトアップなどもよいが、昼間に橋を鑑賞する準備が必要。橋の周辺は汚く、水管橋などで橋自体が見えない。 ・外部に観光資源を紹介する前に、区民に向けた、橋の価値に対する理解を深める試みが必要ではなからうか。 2.通運丸(明治期の蒸気船)の再現と水辺観光 ・明治期に両国と銚子を結んだ蒸気船「通運丸」は、区の水辺活用の目玉になりうる存在であり、復元を提案する。 ・江戸川や利根川を巡るのどかな川の旅として海外にも紹介し、川沿いの船宿や観光資源の発掘、他県との連携を行う。 ・スクリーンではなく、船体両側に水車を取り付けた外輪船としての原型を再現することで、災害時は浅い水深でも接触しにくい利点を活かしての活躍が期待される。 ・採算などの理由から姿を消したかつての水上バスの教訓を活かし、新通運丸を運行。 ※本文を要約して表記しています。 | 【復興橋梁について】 区としても、復興橋梁が震災復興の歴史と都市の発展を物語る重要な資産であることを認識しています。基本方針「地域資源を活かした魅力づくり・磨き上げ」における取り組み「区の歴史文化の活用」や「ナイトエコノミーの推進」において復興橋梁の活用を図るなど、引き続き区民が歴史文化資源に触れ、その価値を認識できるように、体制作りを継続していきます。 【通運丸について】 歴史的価値と観光資源の両面で意義深い内容ではありますが、観光船の建造となりますと、現時点では財政面や体制等の制約により、実現に向けた取り組みを進めることが難しい状況でありますので、今後の事業展開の参考にさせていただきます。 | | 60歳代 |
| 3 | 45 | ・観光マップの作成 | 江東区を大きく3つに分けるといいと思う。日本人、外国人とも若者には臨海部、中年以降で歴史に興味がある人は深川エリアをすすめる。また、佃煮を求める外国人が多いようで、築定の場所をよく聞かれる。築定は有名店ではあるが、買える時間が決まっているので、そこら辺を英語できちんと説明したものを渡してほしい。また、ラーメンを食べたい外国人も多いようなので、ラーメンマップも作ったらどうだろうか？清澄白河エリアのカフェマップもいいと思う。ブルーボトルコーヒー1号店も紹介すると、かなり喜ばれるようだ。 | 来訪者が興味関心を有するコンテンツは、ご提案の中にある佃煮、ラーメン、カフェなどを含めて多様であり、また、比較的短期間に变化しうるものであると考えています。そのため、本プラン上では具体的なマップの内容には言及せず、現案のままといたしますが、今後個別のマップ作成を検討する中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。 | | 50歳代 |
| 4 | 45 | ・情報発信の多言語化 | 英語や中国語、韓国語などで表記とありますが、欧米など外国では本国語以外の看板やアナウンスがないことはご存知でしょうか？江東区が深川など日本文化が観光のポイントであるならば、日本を貫くことが、外国人には魅力に映ると考えます。 | 訪問先として日本への興味が世界的に高まりつつある一方、諸外国において日本語話者の割合は非常に限定的な状況です。単に訪日観光客の便宜を図るというだけでなく、日本文化や行動様式を正しく理解してもらったり、非常時等の混乱防止を測ったりする上でも、多言語表記は欠かせないと考えています。このことから、現案のままといいますが、過度な対応により日本人に伝わりづらくなるといった事態が生じないよう、いただいたご意見を参考にさせていただきます。 | | 50歳代 |

江東区観光推進プラン(案)【パブリックコメント意見対応一覧表】

| No. | ページ | 意見箇所 | 意見等(一部省略・要約) | 区の考え方 | プランへの反映 | 意見者年代 |
|-----|-----|-------------------|---|--|---------|-------|
| 5 | 47 | ・外国人を対象としたプロモーション | <p>江東区観光推進プラン(素案)および素案概要資料を通読し、第1章から第4章にかけて示されている計画の背景、現状認識、調査結果、ならびに基本理念・基本方針・施策の方向性を踏まえたうえで、以下の意見を述べさせていただきます。</p> <p>本プランにおいて、水辺空間、歴史文化資源、商店街、臨海部の新たな観光関連施設など、江東区が有する多様で質の高い観光資源が整理されている点、また各種調査結果から「魅力はあるが埋もれている」「区内外ともに資源の認知・接触が十分ではない」といった課題認識が明確に示されている点について、大変意義深いものと感じております。</p> <p>特に、第2章で示されている調査結果において、区民自身も区内資源を十分に把握できていない状況や、インバウンド来訪者が訪問先での情報取得に課題を感じている点は、今後の観光推進において「情報の届け方」が重要なテーマであることを示していると受け止めました。</p> <p>こうした現状認識を踏まえると、観光資源そのものの新規創出以上に、既存の魅力をどのように認知してもらい、来訪行動につなげていくかが、今後の施策において重要になると考えます。どれほど魅力的な資源であっても、旅行検討段階(いわゆる「旅マエ」)で情報に触れられなければ、訪問先の選択肢に入りにくい状況にあるためです。</p> <p>本プランでは「魅力を伝える情報発信・プロモーション」が基本方針の一つとして掲げられていますが、現在の観光行動を踏まえると、新たな観光情報サイトを立ち上げるだけでは、十分な効果を得ることが難しい場面も想定されます。多くの観光客は、既に影響力を持つ旅行案内サイトやSNS、口コミサイトなどを通じて行き先を決定しており、情報発信においては、既存の主要媒体をどのように活用していくかが重要になると感じます。</p> <p>特にインバウンド施策に関しては、素案でも触れられている通り、国・地域によって来訪者の属性や行動特性が異なります。そのため、まずは海外観光客が実際に参照している主要な旅行案内サイトやプラットフォームを調査・整理し、影響力のある媒体を把握したうえで情報発信を行うことが、有効な取り組みになるのではないのでしょうか。</p> <p>また、江東区の魅力に関する情報自体は、既に日本語では質の高い形で多く存在しており、調査結果やこれまでの施策の蓄積からも、その点は十分に確認できると感じました。今後は、こうした既存情報を整理・選定し、多言語化した上で、海外観光客が実際に利用している媒体へ展開していくことが、効率的かつ実効性の高い情報発信につながると考えます。</p> <p>国・地域ごとに参照される情報源を整理し、優先順位をつけて段階的に展開していくことで、本プランが掲げる「魅力を伝える情報発信・プロモーション」が、より具体性と実効性を伴う施策として深化していくことを期待しております。</p> <p>本プランの方向性に賛同するとともに、計画内で示されている課題認識や調査結果を踏まえたうえでの意見として、今後の施策検討の一助となれば幸いです。</p> | <p>ご提案を踏まえ、取り組み「外国人を対象としたプロモーション」(47ページ)の内容を、以下のように変更いたします。</p> <p>旧:海外の観光イベントへの出展や観光パンフレットの海外発送等を通し、海外向けプロモーションを行い、本区のファンの拡大を目指します。</p> <p>新:海外の観光イベントへの出展や観光パンフレットの海外発送等を通し、海外向けプロモーションを行い、本区のファンの拡大を目指します。また、そうしたプロモーションを行うにあたり、外国人が活用する情報源等についての情報収集を行い、効果的な発信を図ります。</p> | ○ | 50歳代 |

江東区観光推進プラン(案)【パブリックコメント意見対応一覧表】

| No. | ページ | 意見箇所 | 意見等(一部省略・要約) | 区の考え方 | プランへの反映 | 意見者年代 |
|-----|-------|--|--|--|---------|-------|
| 6 | 48・54 | ・観光ガイドの養成と活用 ・重点プロジェクト2「周遊性の高い観光推進」 | 会社勤務時代、海外からのお客を深川資料館や清澄庭園に案内して高評価を得た事もあり、個人事業としてガイド業をしている。その点から申して海外旅行者の江東区内観光需要は益々高まるが、それへの対応が不十分で区内経済への効果を上手く引き出せていないと考える。ボランティアガイドだけでは不足する観光需要に応えるべく民間の観光ガイドを積極的に活用、協働すべきと考える。また、観光スポットを案内するだけでなく、区内の飲食店やクルーズ、アウトドアアクティビティ業者も巻き込んで区内にお金が落ちるような仕組みを強めるべきと考える。その利益の一部をオーバーツーリズム対策の投資に回す事で持続的発展が期待できる。私個人は現在、富士山北麓富士五湖周辺でガイド業をしているが、以上の事が実現できれば是非江東区深川地区でもガイド業を実施したいと思う。 | 外国人旅行者を含め、本区への訪問者における区内周遊を一層促進していくことは、非常に重要な課題であると認識しており、本プランにおいても重点プロジェクト2(54ページ)として「周遊性の高い観光推進」を掲げている所です。一方で、既に本区には年間数百万人規模で外国人旅行者が来訪していることから、周遊促進に向けた中心的な取り組みとしては、それらの方に個別にアプローチする取り組みではなく、周遊ルートの造成や観光マップの作成(多言語化)等を設定しています。本プラン(案)では、ガイドの活動について、取り組み「観光ガイドの養成と活用」(48ページ)に定めるように、区民が学べる養成講座の開催等と併せて推進することで、区民の愛着醸成も図る考えであることから、現案のままといいたします。なお、取り組み「区内の施設・団体との連携の推進」(48ページ)や、第5章内の「推進に向けた各主体の役割」(58ページ)の表内の「民間事業者等」の欄等で示したように、民間事業者との連携を図っていく考えであることから、今後も様々な民間事業者の知見をお借りしながら観光推進を図っていきたいと考えています。 | | 60歳代 |
| 7 | 50 | ・オーバーツーリズム対策 | 湾岸部では、バスの混雑はもちろん、路肩や地べたに座るなど事故を誘発しそうな行動、上半身裸の外国人など驚愕する外国人の行動を目にします。外国人人数が増えれば増えるほど地域住民に混乱が広がってます。住民不安解消対策はどのようにしているのでしょうか？ | バス等の混雑については、区民の要望等を受けて都交通局等の関係部局に要望を伝えるなどの対応を行っています。また、ご意見において例示されたようなケースについては、関係機関(都交通局、警視庁)等との連携を図りながら対応を行っています。なお、本プラン上では50ページの取り組み「オーバーツーリズムの対策」に掲げるように、マナー向上のための啓発など、必要な対応を検討・実施していきます。内容としては、現在の記述で既に見込んでいるものであることから、現案のままといいたします。 | | 50歳代 |

江東区観光推進プラン(案)【パブリックコメント意見対応一覧表】

| No. | ページ | 意見箇所 | 意見等(一部省略・要約) | 区の考え方 | プランへの反映 | 意見者年代 |
|-----|-----|-----------------------------|---|--|---------|-------|
| 8 | 52 | ・重点プロジェクト1 「水辺を活かした観光推進」 | <p>特に、重点プロジェクトとして掲げられている「水辺を活かした観光推進」について意見を申し述べます。本推進プランでは、対応する施策が実情を踏まえた具体的なものとなっておらず深掘りが足りない印象を受けます。また、既存施設の維持管理にとどまり、必要な施設整備や改善が含まれていないと読み取られかねません。具体的には以下の通りです。</p> <p>(1)江東内部河川・水辺の魅力向上 ○ナイトクルーズの環境整備 ・江東内部河川にかかる橋と周辺ランドマーク施設のライトアップ ・扇橋閘門の稼働時間の柔軟な運用 ・共用の夜間係留場所の確保(夜間は閘門が開かないので、本来の係留場所に戻れません) ○乗船場及び周辺の整備(安全で魅力あるものに) 以下のような問題を踏まえ、必要な整備について盛り込んでほしい。 ・正式な乗船場とはなっていない船着場の存在、イベント時の動力船と非動力船の錯綜 ・錯綜を避けるため、和船運航時間を避けて動力船が運航しており、観光舟運需要の取りこぼしが存在 ・乗船待合場所と周辺空間が狭いため、イベント時にカフェ、物販等のサービス提供が難しい ・水運の結節点として将来性がある乗船場が存在(災害時における物資の輸送・積替え拠点にもなりうる)</p> <p>(2)観光クルーズの担い手の養成・確保 ○高齢化するリバーガイドの後継者養成</p> <p>(3)舟運事業者等の負担軽減 ○公共係留場所の確保による回航負担の軽減 ○艇庫または係留施設の整備による船舶移送コスト低減 ○使用船舶移送費の補助</p> <p>≪観光推進プランへの具体的な修正提案≫ ・「観光ガイド」を「観光ガイド・リバーガイド」に変更 ・「水辺空間の管理・活用」を「水辺空間の整備・管理・活用」に変更 ・「ハード面の管理」を「ハード面の整備・管理」に変更 ・個別事業例に「乗船場と周辺地域の魅力向上」「ナイトクルーズルートのライトアップ」「旧中川水辺公園における親水体験型イベント」「江東区リバーガイドの養成講座」「既存乗船施設の課題の検討と周辺地域を含めた整備・改善」「新規乗船施設の必要性と整備方策の検討」を追加 ・水上バス及び水上バスステーション関連の記載の再検討(昔運航していた水上バスは今はないので、水上バスステーション維持管理は意味をなさないのでないか) ・重点プロジェクト1「水辺を活かした観光推進」の本文において、水辺の魅力について「さらなる向上の可能性も存在して」いる旨を加筆</p> <p>※本文を要約して表記しています。</p> | <p>48ページの取り組み「観光ガイドの養成と活用」の概要の1文目について、リバーガイドも含めて検討できるよう、以下のように変更を行います。 旧:区民を中心としたボランティアによる「江東区文化観光ガイド」「江東区英語ボランティアガイド」の養成講座を開催します。 新:区民を中心としたボランティアによる「江東区文化観光ガイド」「江東区英語ボランティアガイド」の養成講座を開催し、<u>他のガイドについても養成に向けた取り組みを検討します。</u></p> <p>水上バスステーションは、「江東区水上バスステーション条例」に基づく11か所(休止中含む)の乗船場とスロープです。個別事業の例「水上バスステーション維持管理(最終案にて「乗船場等の維持管理」に変更)」は、防災、観光、旅客運送等の水上拠点として水辺空間の活用を図ることにより、水彩都市・江東の魅力の向上及び地域経済の発展に寄与するため、乗船場等の設備の維持管理を行う事業となります。</p> <p>プラン案に対する修正意見につきましては、以下の通り対応いたします。 ・「水辺空間の管理・活用」を「<u>水辺空間の整備・管理・活用</u>」に修正します(38,50,52,56ページ) ・「ハード面の管理」を「<u>ハード面の整備・管理</u>」に修正します(39ページ)。 ・「重点プロジェクトの本文」(52ページ)ご指摘の内容を追記します。 ・個別事業の例として、44ページ「江東湾岸まつり」の下に「<u>親水体験イベント</u>」を追加します。</p> <p>個別事業の例に関していただいた他の意見については、あくまで現時点で見通しが立つものを記載しておりますので、現案のままとさせていただき、いただいたご意見を参考に今後も継続的に検討を行ってまいります。</p> | ○ | 70歳代 |

江東区観光推進プラン(案)【パブリックコメント意見対応一覧表】

| No. | ページ | 意見箇所 | 意見等(一部省略・要約) | 区の考え方 | プランへの反映 | 意見者年代 |
|-----|-----|-----------------------------|---|--|---------|-------|
| 9 | 52 | ・重点プロジェクト1 「水辺を活かした観光推進」 | <p>(前略) 旧渋沢家住宅が江東区に移設されたことでもあり、明治・大正時代の殖産興業の時代に注目した観光施策(観光船の建造)を検討されてはいかかがというものです。 明治・大正時代は蒸気船による大量輸送時代でした。内国通運会社(現日本通運)による「通運丸」は、明治の利根川水系を代表する定期貨客船でした。通運丸は廃業までに40隻近くが造られました。初号の第一通運丸は、江東区にあった石川島平野造船所で明治9年(1876)2月に完成しました。木造の外輪蒸気船で、全長約22m、幅約3m、時速11kmで走行しました。 外輪船は、船の両脇にある大きな車輪を推進器として走る船で、この姿が珍しかったのか、大変な人気で当時の錦絵にも描かれました(船の科学館に展示模型があります)。 (中略) この船を模した観光船を建造し、小名木川から隅田川を経由して豊洲・有明に運航することで期待されるのは以下です： ・歌川国芳や広重などが描いた深川の錦絵の世界(江戸のポップカルチャー)と、新しいポップカルチャーの情報発信の場であるコミケ、チームラボなどの文化を結びつける ・中川船番所、小名木川、旧渋沢邸、明治丸、東京ガス、東京電力跡地など明治・大正時代の産業振興の歴史的な場所を一望することで産業振興の歴史を結びつける ・天ぷら、鰻の蒲焼、江戸前鮎、日本蕎麦などに使われる、流山の味噌、行徳の塩、野田の醤油が、舟運によって運ばれ日本の食文化の礎を担った運河の歴史を結びつける ・清澄白河地区のオシャレなカフェ、プーランジェリー、グルメバーガーと、食材の一大供給拠点である豊洲新市場を結びつける ・東京海洋大学、芝浦工業大学など江東区にある大学の船の設計・運用と工学系の知見や、大学生人材の活用場として期待できる</p> <p>※本文を省略して表記しています。</p> | <p>ご提案のあった観光船に関連して、舟運や水辺の活用といった点では、本プラン(案)でも取り組みとして「観光舟運の活性化」(42ページ)を挙げているほか、重点プロジェクト1(52ページ)として「水辺を活かした観光推進」を掲げ、様々な取り組みを記載している所です。ご提案にある観光船の建造については、現時点では財政面や体制等の制約により、実現に向けた取り組みを進めることが難しい状況ですので、現案のままといいたしますが、策定後に毎年度個別事業を検討する中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p> | | 60歳代 |
| 10 | 60 | ・成果指標 | <p>観光推進の効果を地域経済の活性化と謳っているが、効果指標には経済指標がない為、効果測定ができないと思われる。円を単位にした指標を図るべき。</p> | <p>成果指標一覧の表(60ページ)において記載してある通り、基本方針1に関する指標として「一人当たり観光消費額」を設定予定ですが、目標設定を「10%上昇」としてはいますが、実質的に円を単位とした指標設定であることから、現案のままといいたします。</p> | | 30歳代 |